



学校法人 実践女子学園

中期計画

2021～2023年度



2020年 8月 6・7日	夏期常任理事会集中討議 主要な4テーマについて討議
2020年10月17日	理事会及び評議員会 次期中期計画内容・策定スケジュール報告 次期中期計画策定開始
2020年10月下旬から	理事長ヒアリング（内容精査・確認）
2020年12月 5日	理事会及び評議員会 中間報告
2020年12月末まで	理事及び評議員からの意見聴取
2021年 1月14日、20日	学外・非常勤理事からの意見聴取
2021年 1月19日、22日	学外者（卒業生、有識者）からの意見聴取
2021年 2月13日	理事会及び評議員会 成案審議



建学の精神 教育理念

基本方針

大学・大学院・短期大学部

学長方針

- ① 教育の充実
- ② 社会連携の推進
- ③ 学生支援（J-TAS）の充実
- ④ 入口（入試）の強化
- ⑤ 研究の推進
- ⑥ グローバル化の推進
- ⑦ 生涯学習の充実

中学校高等学校

校長方針

- ① 中高改革の推進

法人

- ① 広報・渉外力の強化
- ② ICTの整備
- ③ 人事諸施策の充実
- ④ 収入の多様化

財務計画

学園重要指標（目標指標・重要指標）



建学の精神 教育理念

建学の精神



「女性が社会を変える
世界を変える」

創立者
下田 歌子

創立者下田歌子の「女性こそが社会を変える」という言葉には、女性に対する深い信頼と期待があり、女性はその持てる力を発揮することによってこそ「善美」な国家・社会を創ることができるという強い信念が込められている。この信念を持って、学園が創設された。

教育理念

品格高雅にして
自立自営しうる女性の育成

- 仕事や生活、社会に役立てることのできる実践的な知識・技術を修得すること
- 学問や教養を応用し、活用しうる能力を身につけること
- 知識・技術のみならず、品格を身につけること



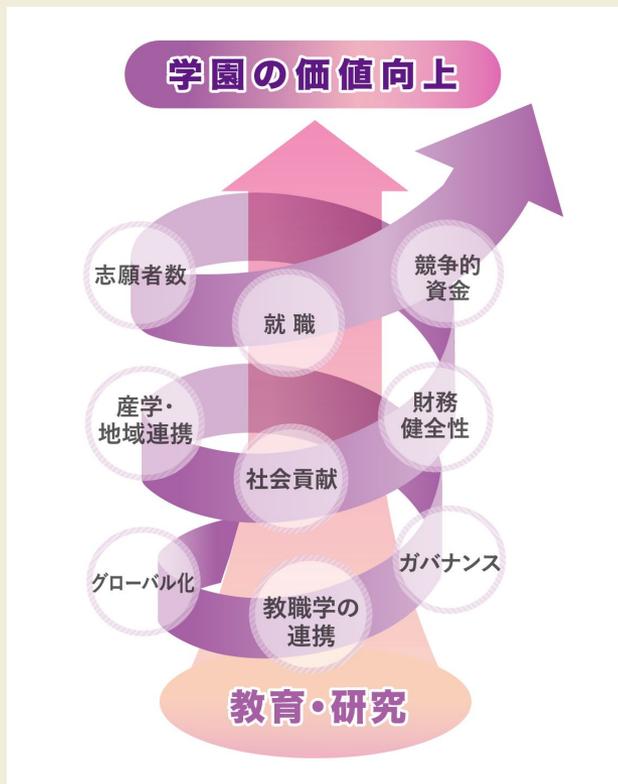
04

目標



競争力の向上

学園の価値を向上し続ける



首都圏の上位女子校に追いつき、
比肩するポジションを獲得する。

今回の中期計画（3年）では、

具体的な経営重要指標を設定し、

その指標で、上位校に近づくことを目指す。



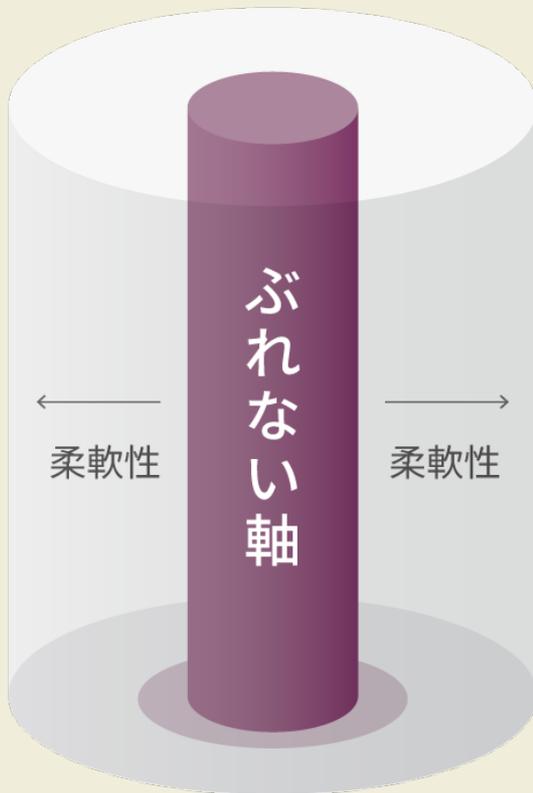
学園中期計画の基本方針・方向性は変えない

[中期計画への向き合い方]



感染は、少なくとも

「2021年度前半までは継続する」と仮定する。



新型コロナウイルスの社会活動への影響の見立て

① 2021年度

年度の前半までは、新型コロナウイルスの影響が一定程度残ると考えられる。ワクチンの開発・接種の進捗状況、オリンピック・パラリンピックの開催を前提とした政府の対応により、年度後半から感染は収束に向かいコロナ以前の社会活動に戻ると考える。

② 2022～2023年度

2022年度以降は、新型コロナウイルスは収束し、基本的にコロナ以前の社会活動に戻ると考える。なお、活動の中身については、コロナを機に変化するものもある。



中期計画

五つの基本方針



中期計画
五つの基本方針

1

未来を切り開く人材を育成する教育の提供

2

学生・生徒の成長支援

3

ステークホルダーとの関係性強化

4

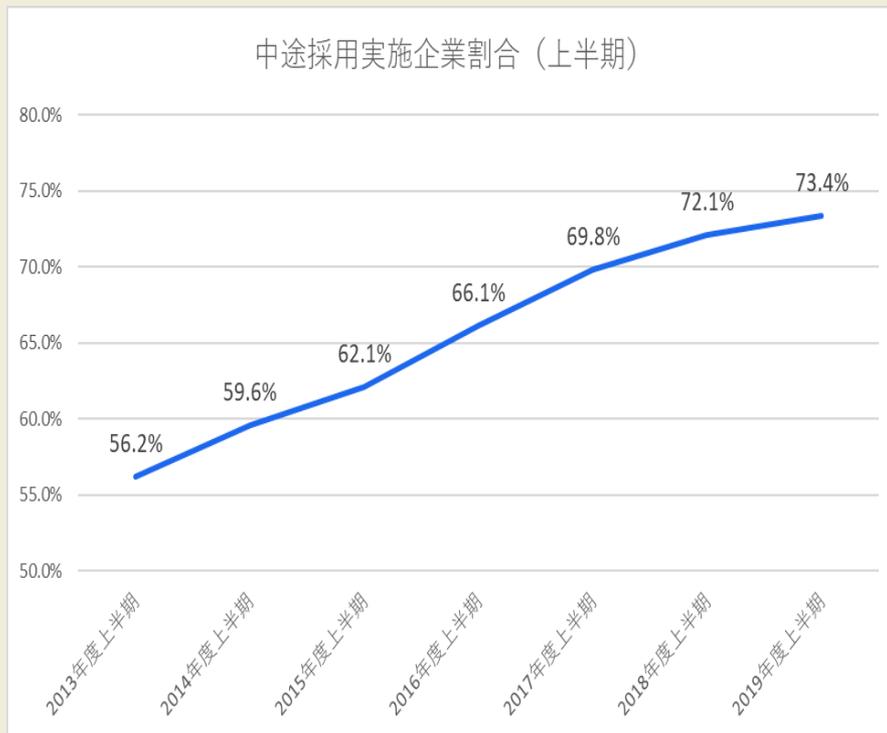
経営資源の有効活用

5

基盤整備の一層の充実



- 企業の採用（雇用）に関するニーズは変化・多様化しており、中途採用が増加している。
- 学生に求める資質や能力は、「主体性」「実行力」「課題設定・解決能力」がBEST3である。
 →企業は、従来の入社後に研修等で能力を高めるだけでなく、より「即戦力」を求めるようになってきていると言える。



リクルートワークス研究所「中途採用実態調査」（2020年5月29日）



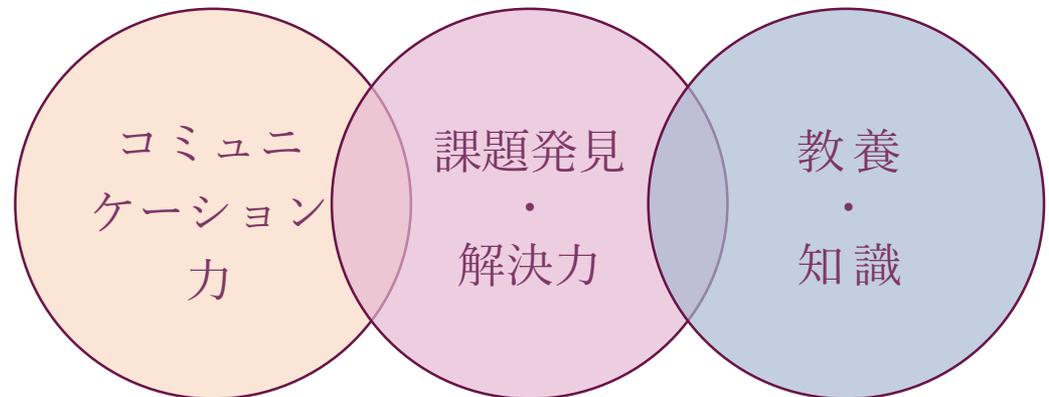
経団連「高等教育に関するアンケート」（2017年12月～2018年2月実施）
 回答数443社
 各社5つの選択肢を選んでもらい、点数による重みづけを行った



不確実性がより高まると予想されるこれからの社会を
「しなやかに」「たくましく」生き抜くために

社会で活かせる力を **確実** に身につける

“社会で活かせる力”とは？

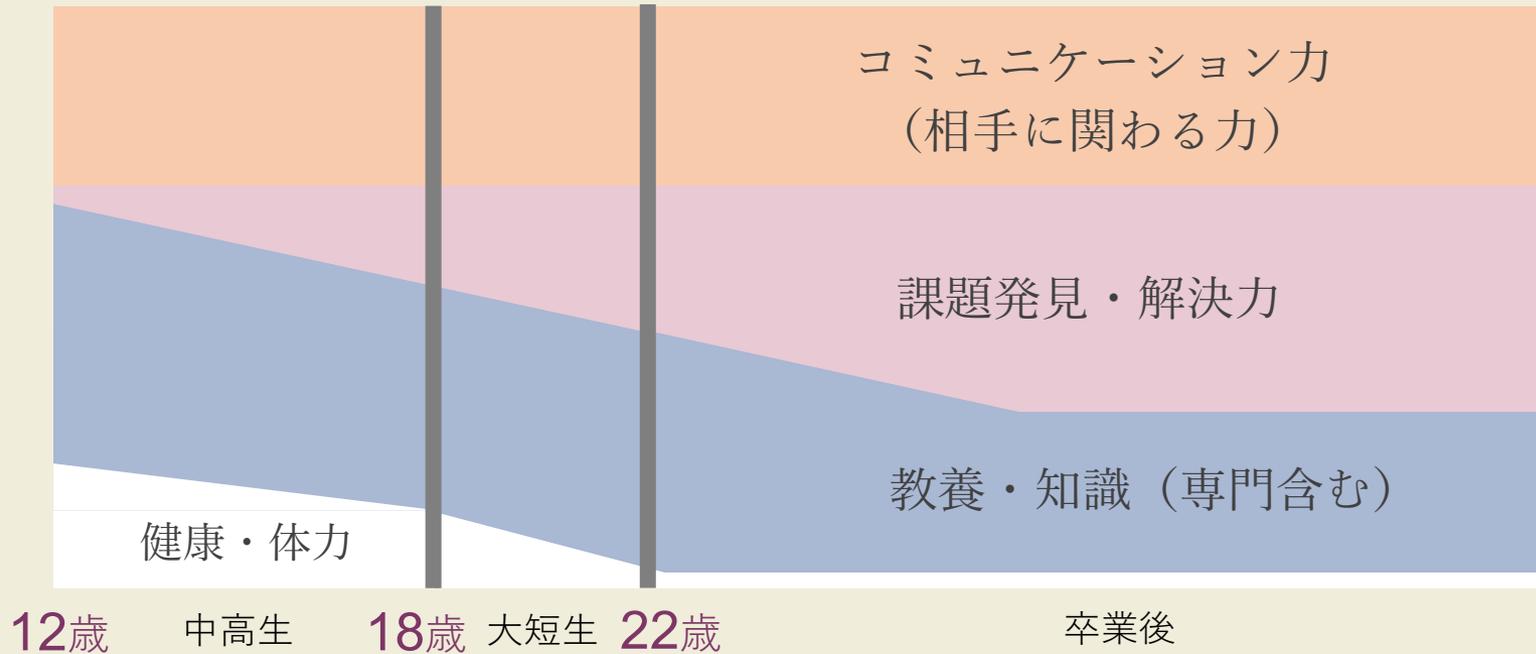




従来

- 課題発見・解決力等は、社会に出てから企業等で装着
- 中高、大短、社会（企業等）での教育が縦割りで隔絶

1人1人の能力開発時間 >>

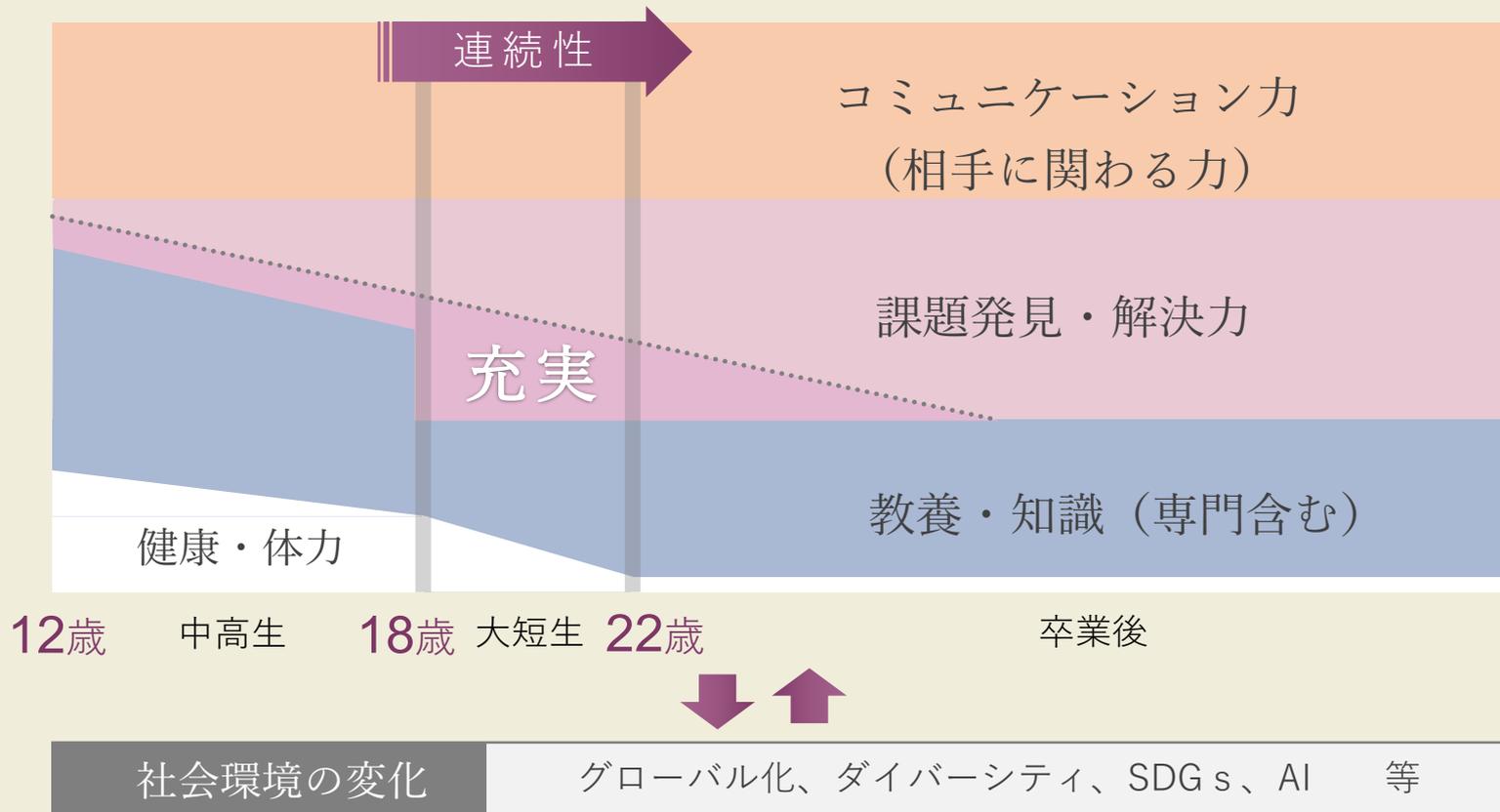




今後

- 中高～大短時代から、課題発見・解決力を学ぶことが必要
- 中高～大短～社会（企業等）での教育の連続性が重要

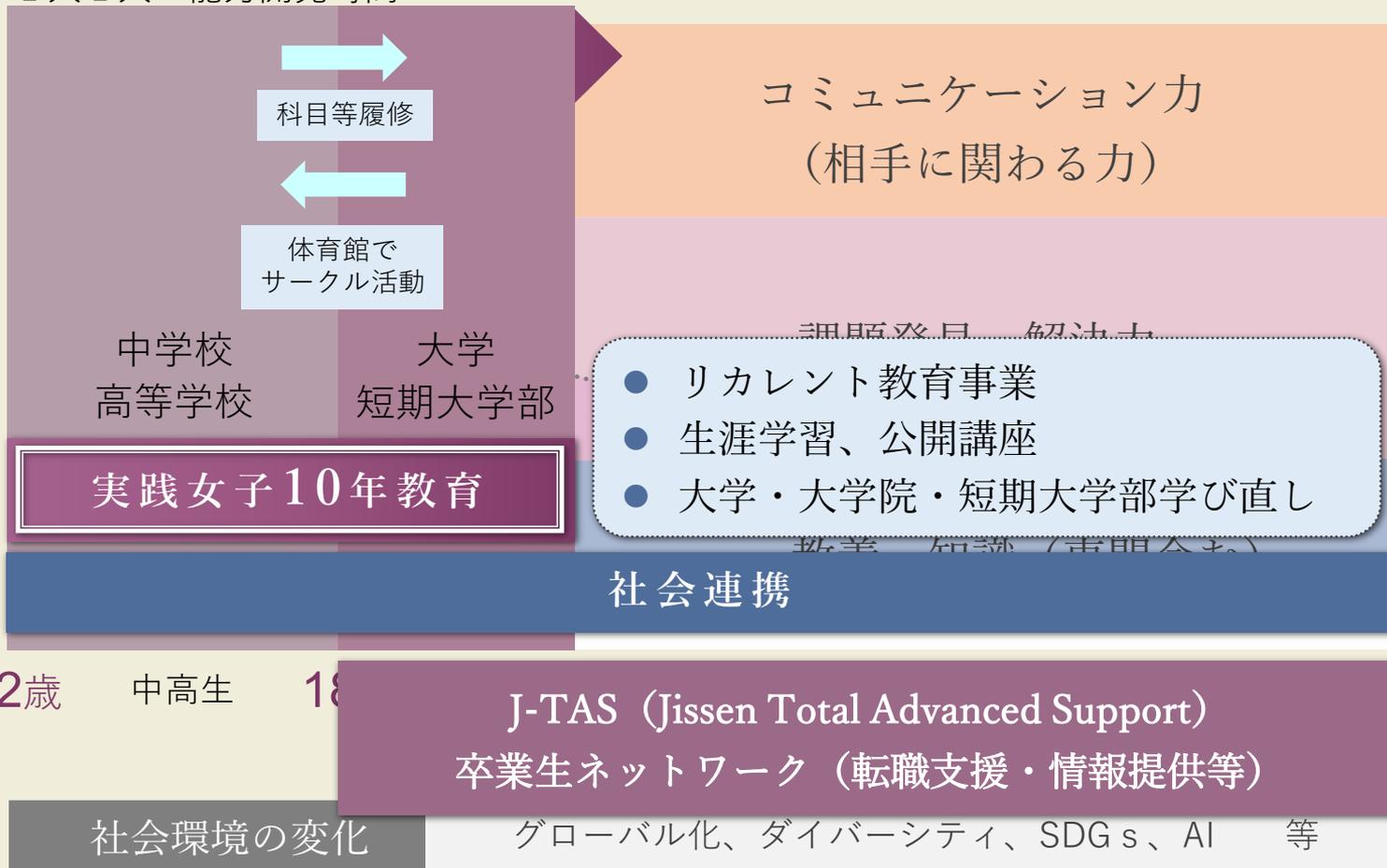
1人1人の能力開発時間 >>





連携を強化し、実践の強みを活かす

1人1人の能力開発時間 >>





連携を強化し、実践の強みを活かす

1人1人の能力開発時間 >>



人生100年時代を生きる女性を、
12歳から卒業後のキャリアまで支援

社会連携

12歳 中高生 18歳

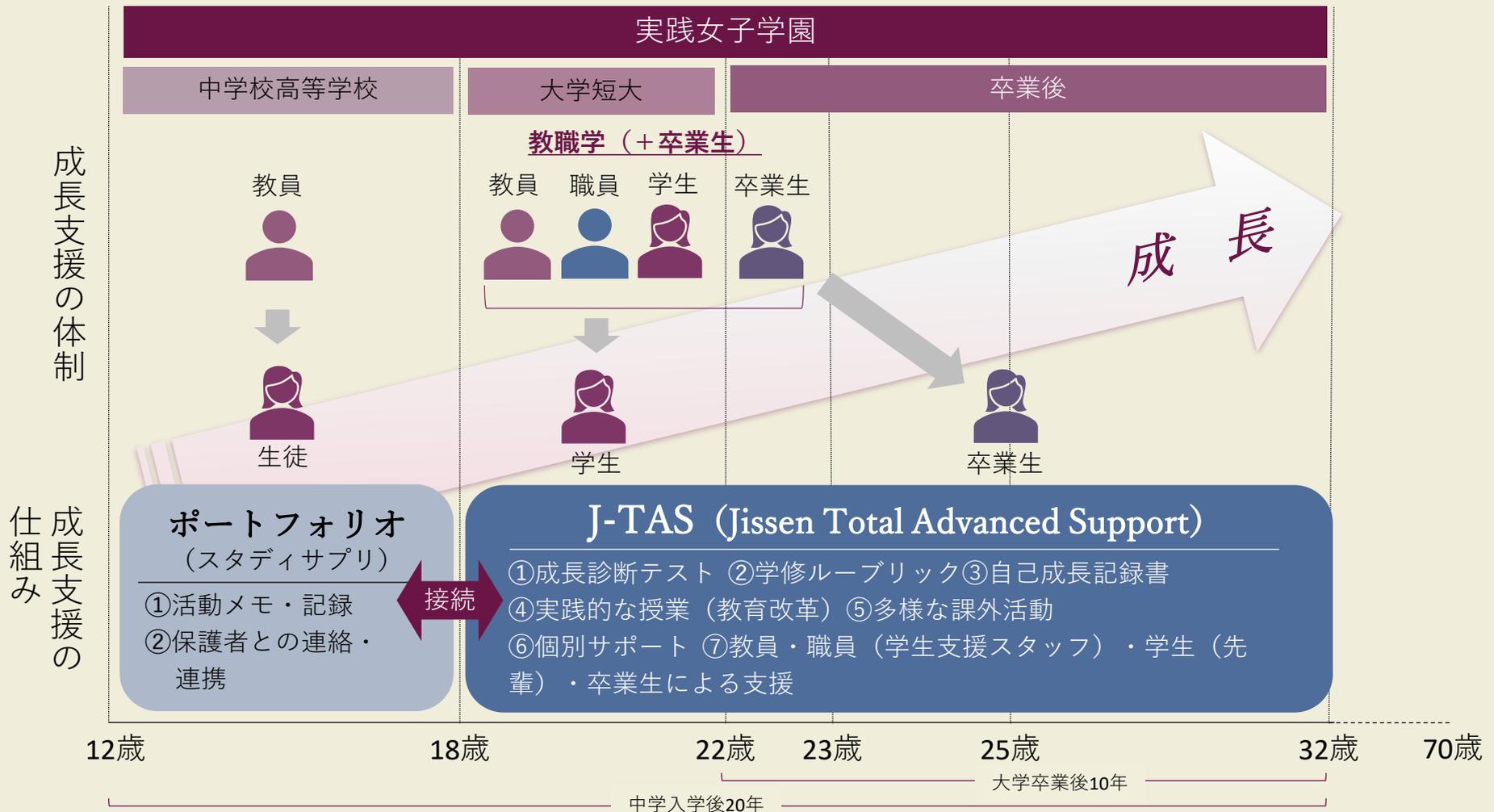
J-TAS (Jissen Total Advanced Support)
卒業生ネットワーク (転職支援・情報提供等)

社会環境の変化

グローバル化、ダイバーシティ、SDGs、AI 等



- 「父母がその愛児に臨むの心をもって生徒に対すべし」という創立者下田歌子の訓言（教職員への教え）に込めた想いを受け、中高、大学短大、卒業後も、学園として、学生第一、学生生徒の成長を支援
- 中高と大学短大の成長支援の仕組みを接続、シームレスな支援を実施





従 来

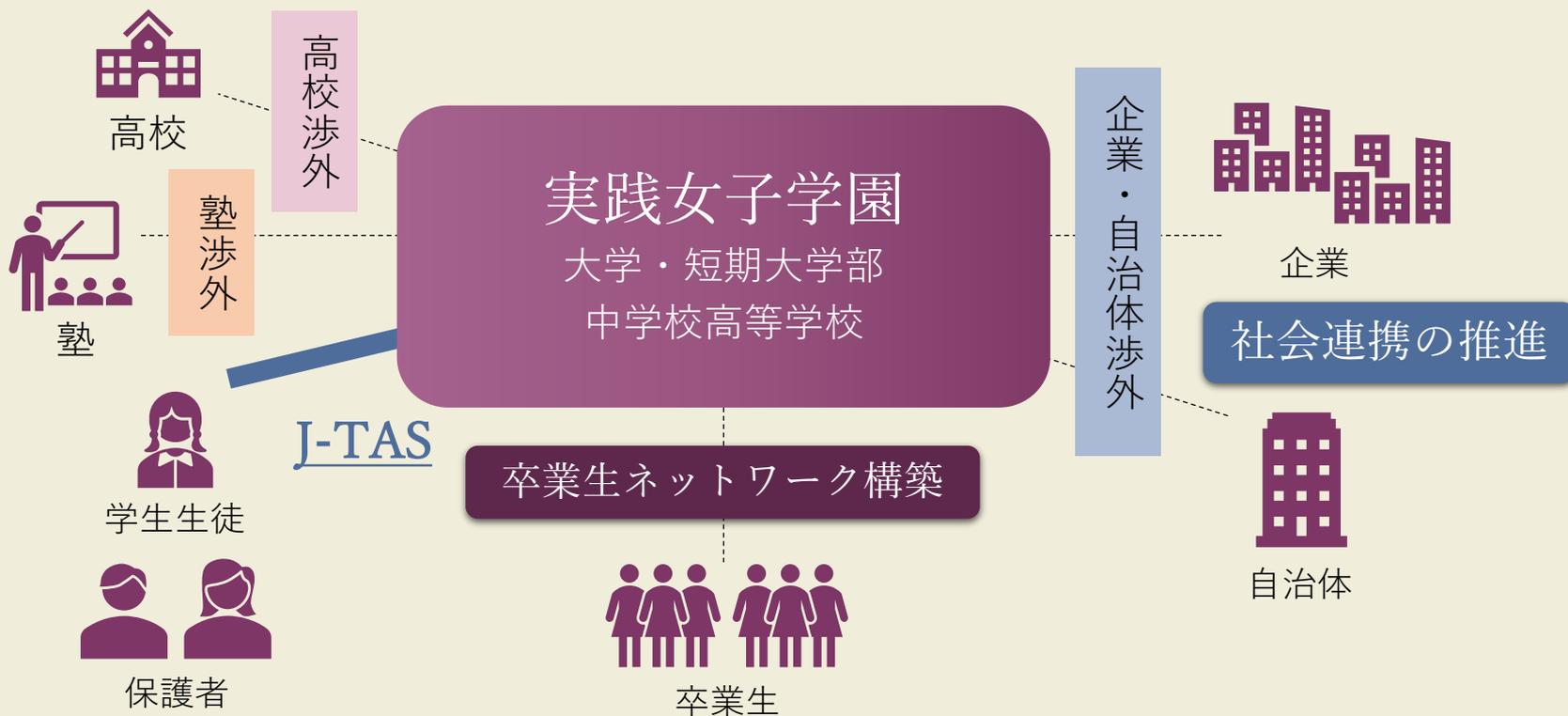
- 学園に関わるステークホルダーとの相乗効果を得るために関係性を強化
- 現状のステークホルダーとの関係性は、学生生徒以外は不十分
課題は、「接点が脆弱（点の接点）」、「情報未集約（情報が点在）」、
「属人的関係性（ノンマネジメント）」等





今
後

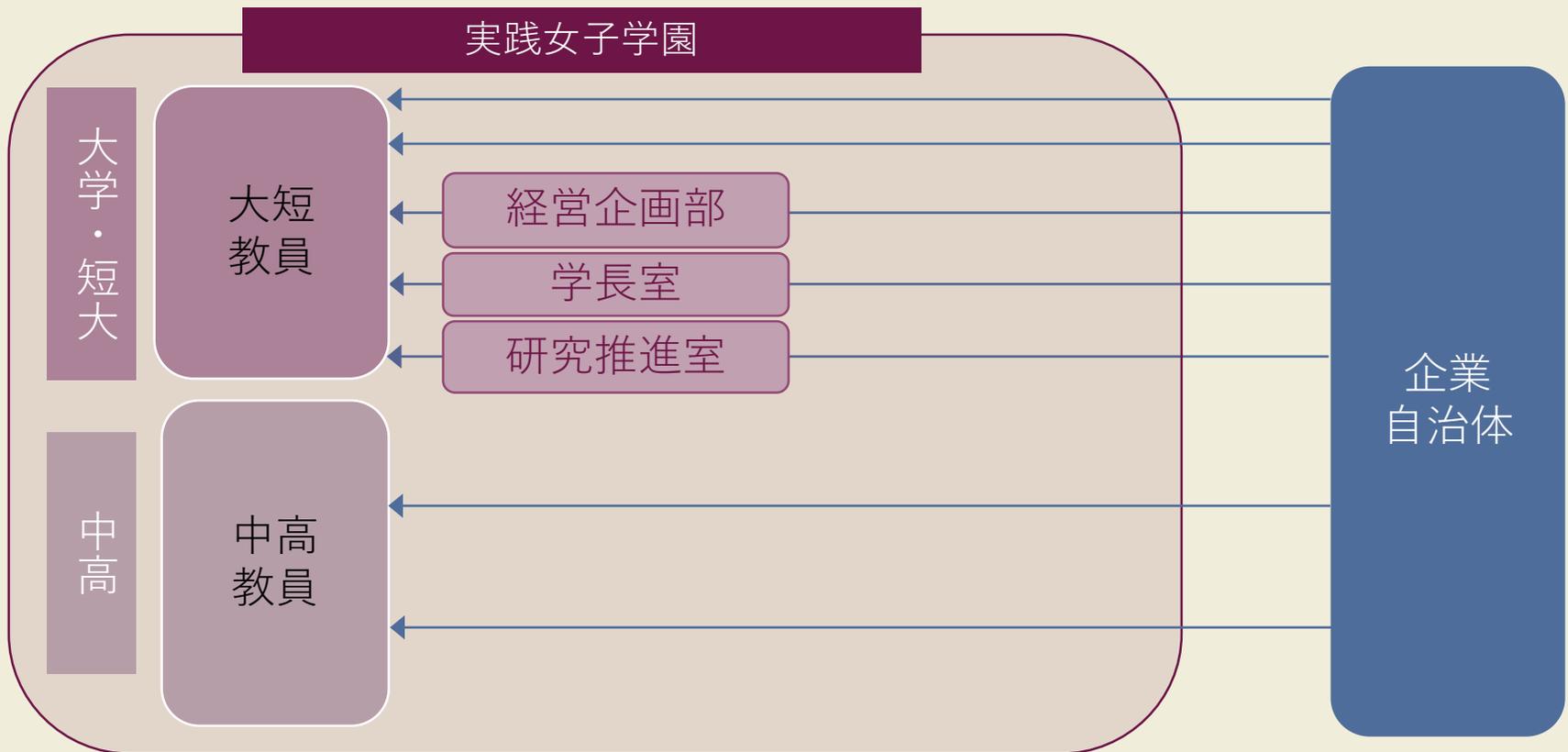
- 渉外に関する戦略的・組織的な対応を実施
渉外活動については、理事長、学長含め理事会メンバーも実施
- 卒業生と学園（学生生徒）、卒業生間のネットワークの構築
- ステークホルダーごとの情報を集約





従来

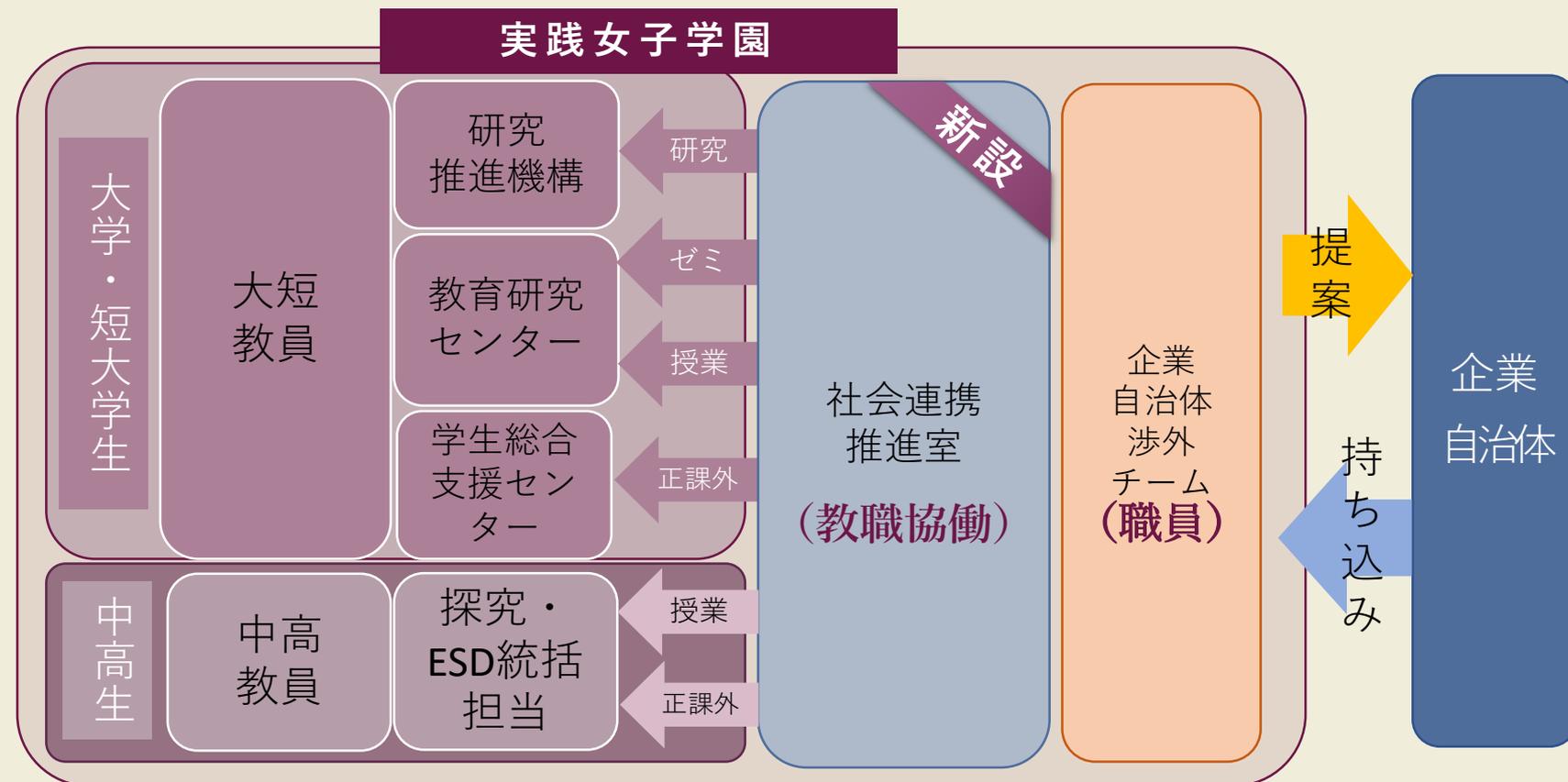
- 案件ごとに、教員（及び職員組織）と「点」の接点
- これまでは、企業・自治体からの持ち込み案件が中心





今後

- 点（個別教員、学校ごと）から、線・面（学園全体）へ
組織的によりダイナミックに
- 受動（持ち込み型）から、能動（提案型）へ





本学社会連携数：171件 ※全教職員対象「社会連携実績調査」（2020年10月実施）より

恵那市



渋谷区



相撲協会



日野市



京都市



近畿日本ツーリスト



日野自動車



久慈市





世界有数のビジネス・文化情報の発信・集積地として、
再生・成長する「渋谷の地」を存分に活用

渋谷	日野	
渋谷キャンパス	日野キャンパス	
<p>中学校高等学校</p>  <p>中学校高等学校 キャンパス</p>	<p>大学・短期大学部</p>  <p>大学・短期大学部 渋谷キャンパス</p>  <p>大学・短期大学部 日野キャンパス</p>	

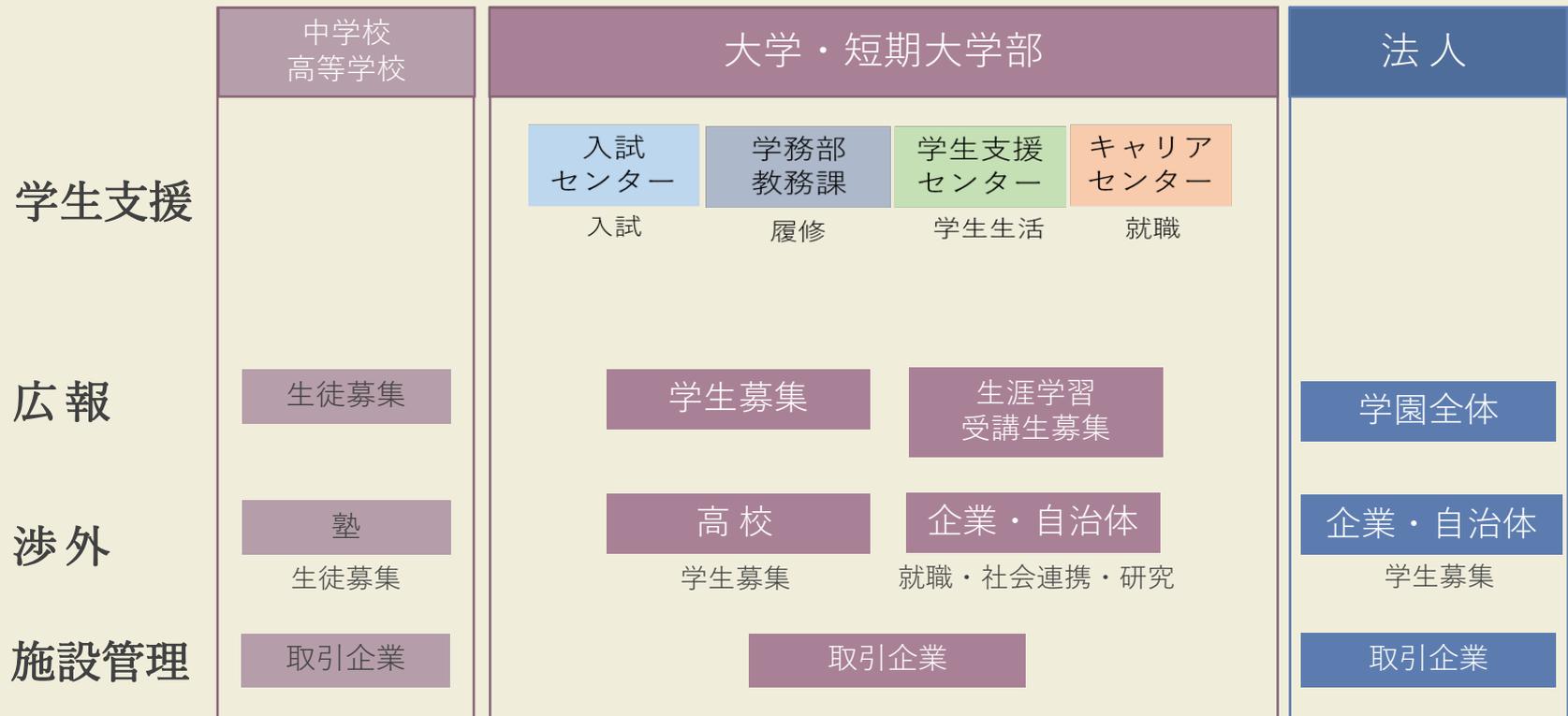
経営資源の
効果的かつ
効率的な活用

- 施設・設備の共同利用（体育館、講堂、図書館、大学大教室）
- インフラに関する業務の一括化（警備、管理、学食運営）
- 教育の連携（高大連携、出前授業、社会連携活動、グローバル化推進）
- 築年数の長い校舎の改築に向けた検討



従来

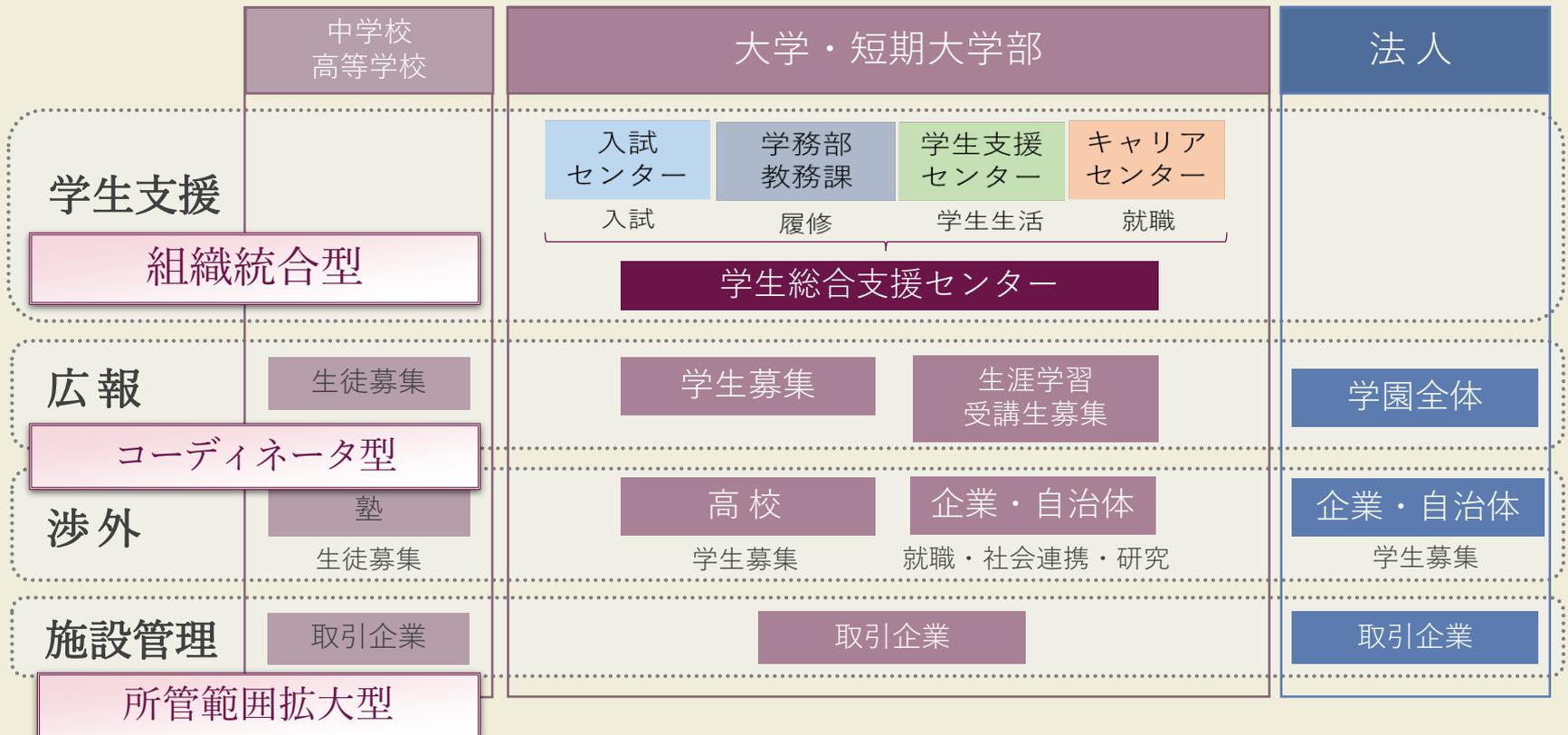
職員組織は組織軸で対応





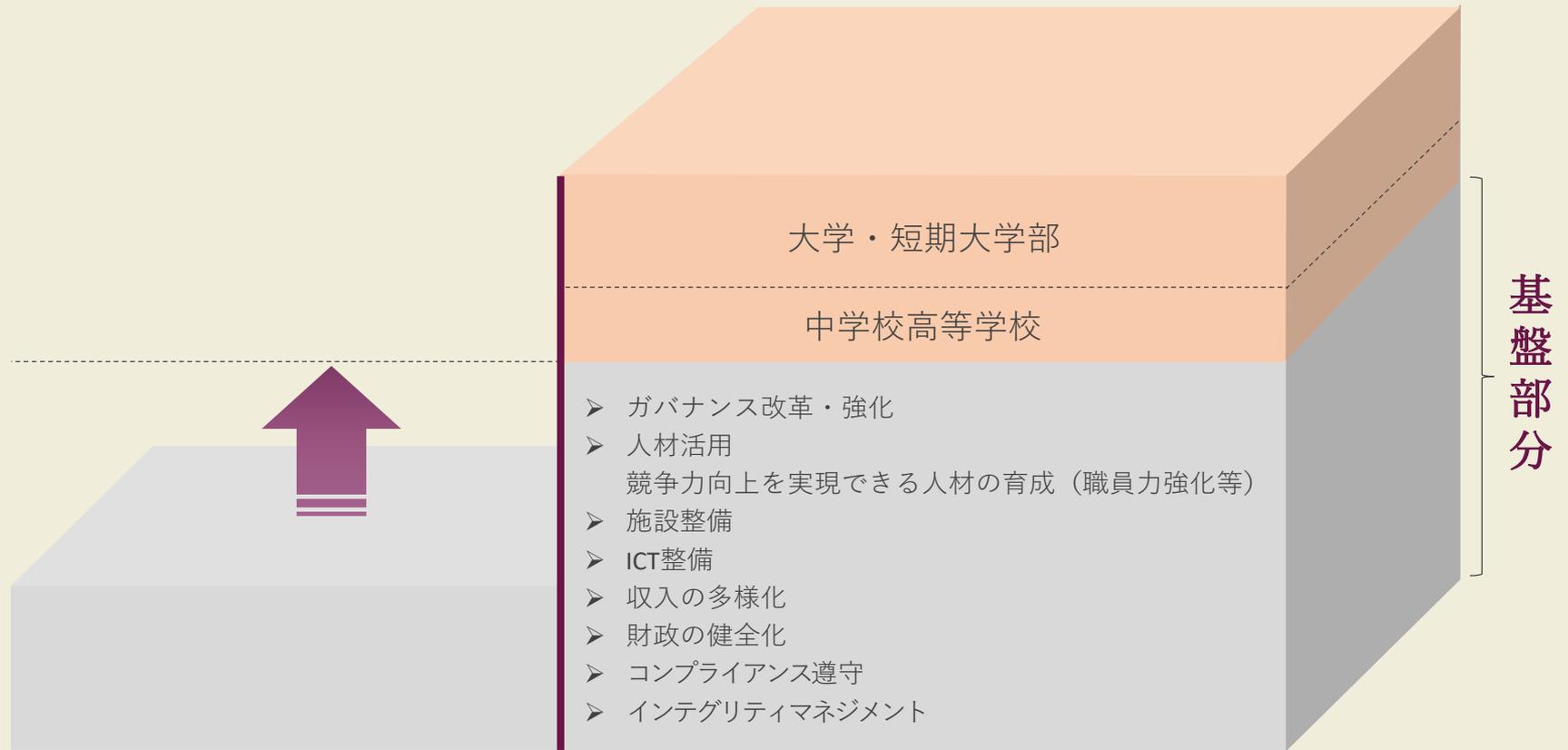
今後

改革の推進に向けて、**経営資源**（人・もの・金・情報・スキル・ノウハウ）をより**効果的・効率的に活用**するために従来の縦割り組織に加え、**機能軸**を導入





- 中期計画の実現、学園の競争力強化に向けて、学園の「**基盤整備**」を着実に実行
- 特に**ガバナンスの改革・強化**については、学外有識者の意見を積極的に吸収



120周年



今回の中期計画の要点

中規模校として、限られた**資源を有効活用し**、**情報を一元化**することにより、**スピード感**をもって学園の運営を効果的・効率的に展開することで、競争力を向上

- 受験生が**絶対に入りたい**学校
 - 在校生、在學生、教職員が所属していることに**誇りを感じられる**学校
 - 卒業生が本学卒業を**自慢できる**学校
- となるように…

学生生徒の**成長**に
コミットできる学園を
目指す



06

大学 · 大学院 · 短期大学部



大学・大学院・短期大学部

学長方針



多様で流動的なグローバル化時代

現代の社会や経済、科学技術などの有り様は、地球規模で連動し、
広範にわたって構造的な変容を遂げつつある。

個人の障害の有無や社会階層、地域の違いなどにかかわらず、
AIやIoT技術、ICTの活用などによって、
すべての人が情報や通信技術を利用できることが必須となっている。



社会を改革し未来を切り開いていくグローバル人材の育成



例えば、SDGsで掲げられている課題を自らの問題ととらえ、
身近なところから取り組むことで、

課題解決につながる新しい考え方や行動を生み出せる人材





社会を改革し未来を切り開いていくグローバル人材を育成するために

知識伝達型

幅広い教養・深い専門性



AIに代替できない能力・態度

課題発見/解決能力
 外国語運用能力・異文化に対する理解
 文理横断な論理的思考/判断力など

自らの学びの社会的意義の理解と
 主体的な学びの深化

社会連携



国際社会の一員として
 自覚と成長

グローバル

- 学びのフィールドを教室からキャンパスの外へ、地域社会や国際社会へ展開できるよう、教育課程やプラットフォームの体制・環境を整備
- 公開講座や生涯学習の充実、留学生を受け入れるための体制を整備



文理融合型の研究の推進、公的研究資金の獲得、大学院生の研究活動支援

研究の社会的役割

社会発展・世界平和への貢献
個人の生活や内省につながる知的探求



さらに求められる役割

新たな知識や価値の創出



学際的、学融合的な研究活動

- 学内外での文理融合型の研究の推進
- 大学院生の研究活動等の支援の充実
- 科研費等の公的研究資金獲得



学生一人ひとりの学生支援のさらなる充実、組織的な学習支援体制の検討

個人と高等教育との関係の変化

進学のと時期、学生の学力や関心、卒業後の進路の多様化



学生支援のさらなる充実



- J-TASを有効に利用して学生一人ひとりの支援をさらに充実
- 適切な学習機会の提供、学習環境を整備するための組織的な学習支援体制を検討
- 社会人学生や留学生への個別支援の充実



正課教育

- ICTを活用した教育展開
- 100分授業の導入
- クォーター制の導入に関する検討
- PBL等の課題解決型学習の拡充
- 大学院におけるキャリアパスを意識した教育展開



正課外教育

- 国内インターンシップの充実
- 国内ボランティア活動の推進



グローバル

- 海外の大学等との交換協定の拡大
- 海外インターンシップの導入
- 海外ボランティア活動の推進
- 留学生受入れのための体制整備



研究

- 受託研究や共同研究の推進
- 文理融合型の研究の推進
- 研究活動支援の充実



社会連携

- 社会連携活動に関する包括的、一元的な管理/運営組織の構築
- 産官学連携や大学間連携に基づく活動の推進
- 公開講座、生涯学習の充実



学生支援

- 組織的な学習支援体制の構築に向けた検討
- J-TAS有効利用の促進

教育の充実

世界的規模な社会変化の中で、柔軟に変化に対応し、社会の発展に積極的に関与することができる学生を育成するために、従来からの知識伝達型の教育に加え、論理的思考を培うためのPBL等の課題解決型学習を重視するとともに、思考の基礎となる基礎学力の向上と広範囲な分野での教養及び数理的思考力とデータ分析・活用能力を養う教育を充実させます。また、学生が主体的に行動し自ら発信していくための機会を増やすために、社会連携やグローバル化に対応した教育環境を整えていきます。

そのために以下の三つの施策を推進します。

1. 主体的な学生を育てるための施策
2. 基礎学力向上のための施策
3. 教育の質を維持・向上させるための施策

社会連携の推進

本学と社会・地域との連携を推進し、社会・地域の問題に取り組むことにより、社会の発展に貢献するとともに、本学の教育及び研究の充実を図ります。これらの取組みの中で、学生の成長機会を最大化します。

また、実践的な学びを提供することを本学の強みと位置づけ、社会連携を強化することで学園全体の競争力を高めます。（「社会連携の実践（“実践の実践”）」の強化）

これらの実現に向け、以下を教職協働で推進します。

1. 学内の社会連携に関する情報を集約し、積極的な発信活動を行う。
2. 積極的に本学の教育活動や研究成果・シーズの発信を行い、連携先を増やす。
3. 連携先と本学の教育・研究とのマッチングを促進し、PBLの正課授業や従来はなかった分野での受託研究等を増やす。
4. 連携による新たな授業や共同研究等を企画する。
5. 教育研究の成果を社会・地域に広く発信するため、生涯学習センターと連携する。

なお、大学・短期大学部に限らず、中高を含めた学園全体で推進します。

学生支援（J-TAS）の充実

学生が卒業後の社会で活躍しうるために、一人ひとりが成長を実感し、自信を高める「学生支援(J-TAS)」を以下の点を含めて強力に推進します。

1. 社会と学生との接点の増加
2. 低学年の就業意識向上のための支援
3. 多様なニーズに対応する相談体制の構築
4. 学内連携
5. 企業とのパイプ作り

正課内外の社会連携等の各種プログラムへ学生が参画することを低学年から推進します。社会と学生との接点を増加させ、失敗や成功を繰り返しながら成長し続けることのできる実践的な環境を整備します。

様々な経験を経た学生が就職活動に挑むに当たり、学生一人ひとりの状況に応じた個別支援を行います。そのために学科や上級生、卒業生等との連携による多様な相談体制を整備することで、学生への適切な情報提供に努めます。

また、多くの企業の採用ご担当者様等との情報交換の結果を踏まえ、コロナ禍に端を発した社会構造の変化を的確に捉え、その支援を柔軟に変化させることにより、学生に対するキャリア・就職支援の充実を図ります。

入口（入試）の強化

研究の推進

グローバル化の推進

生涯学習の充実



07

中学校高等学校



中学校高等学校

校長方針



変わり続け、多様な考えが存在する時代

グローバル化、ICT化、自然環境問題—

- 変わり続ける世界で、流されない「自分」を見つけてほしい
- 多様な考えが存在する世界で、あなた以外のみんなとともに歩んでいける「自分」になってほしい

本当の実践力を学ぶ



自分の考えをしっかりと持った女性

いまこそ、相手を大切に共生できる女性





本当の実践力を学ぶために「変えないこと」と「変えること」

変えないこと (継承する伝統)

堅実にして質素、しかも品格ある女性の育成

学園生活のあらゆる学びの場で、礼節をわきまえ品格を保つことを基本とし、相手への思いやりを忘れない誠実な女性を育てる。

良識を養い、実践を尚び、責任を重んずる

自分で考えたり、挑戦したりすることで、その「体験」を糧とする。120年以上前から継承される「実践」の理念こそが、めまぐるしく変化する未来に対応できる。

変えること

「常に変化し続けること」それこそが「伝統」

- 目的別コース制 (2021年度導入)
- グローバル教育
- 海外修学旅行 (2021年度導入)
- 探究教育 (未来デザイン) ESD (2020年度導入)
- 教育でのICT活用 1人1台PC利用 (2020年度導入)



2019年度卒業生保護者アンケートで意見の多かった3項目
 「1.授業の内容・学習指導」「2.補習・講座の内容・回数」「3.進路指導」
 について、2020年度から新たな取り組みを実施



個別の指摘・意見

1：授業の内容・学習指導

- 先生の個人差がある
- 指導方法の改善希望

2：補習・講座の内容・回数

- 講座情報の保護者への説明不足
- 高2勉強合宿に参加できなかったこと
に対する不満

3：進路指導

- 先生の指導力に個人差あり
- 入試手続きについての情報提供



2020年度からの新たな取り組み

- 授業評価アンケートをふまえた校長面談の実施
- 研究授業の実施（2021年より）
- データを活用したチームによる学習支援と進路指導（教務部とキャリア教育部共同）
- 講座情報の周知方法の工夫
- 高3担当教員との出願指導研究会（11-12月の毎週開催）
- 「外部塾講師による進学ガイダンス」（対象：高2）



生徒の学力向上
進学実績向上

入口から出口までデータを一括化し、
生徒指導や学習指導に活用

ICT、
スタディサプリの活用

入試～中学校3年間のデー
タを活用した高校での学習
指導と進路指導

データを活用したチームによる
学習支援と進路指導

出願指導研究会の開催

授業評価アンケート

中学校での学習習慣定着と学力向上



マーケティングの徹底、マーケットの声を広報活動に反映する

- 説明会アンケート（受験生・保護者の声）
- 在校生・保護者、卒業生の声
- 塾の声
- 非入学者・入学者調査の実施（検討中）



広報コンテンツの整理と創出

- FACTに基づく「実践らしさ」の発信
 - 競争力のある広報コンテンツの創出
- 例えば、渋谷立地→渋谷の企業との連携、実践女子大学との連携→中高大短による活動



広報体制の整備、教職協働による組織的な広報活動の実現

- 中高事務部内に（仮）広報専門チームを設置
- 教員の業務、職員の業務を整理・分業し、より効果的かつ効率的な広報活動を推進



短期サイクルでのPDCAの実施



意識・マインドの変革

組織風土の改善

① 教科・学年の協働・連携

② 外部との交流

③ 意思決定プロセス

④ 情報共有

教育活動の活性化

生徒の成長、学力の伸長

生徒・保護者の満足度向上

< 志願者数増加へ >

中高改革の推進

実践女子学園中学校高等学校は、校祖下田歌子の建学の精神を柱に伝統を重んじつつ多彩な魅力ある教育を追求して、世界に羽ばたける女子の育成を目指していきます。

6年一貫教育の中で、生徒の自発的・主体的な学習活動を基軸とし、中学では基礎学力の確実な定着を図ります。生徒の理解度に合わせて、英語・数学においてレベル別クラスの設定等、個々の生徒に応じた学習を行い、確かな学力の伸長に努め、高校では一人一人の特性を把握して進路実現を図ります。

また、中高改革のテーマである「定員確保」のためには、第一志望の志願者数を増やすことが大切であり、「偏差値」や「進学実績」といった本校の客観的な評価（ブランド力）を向上させていきます。

具体的な取り組みの骨子は次のとおりです。

1. 教育の充実（教育改革・学力の向上・特色ある）
2. 併設大学と高大連携の強化
3. 広報活動の刷新
4. 組織風土改革



08

法人

財務の健全性の維持

広報・渉外力の強化

ICTの整備

人事諸施策の充実

収入の多様化



中期計画に基づき、単年度事業計画（アクションプラン）を作成し、組織・個人目標に落とし込み、マネジメントサイクルを回すことで実効性を高める。

